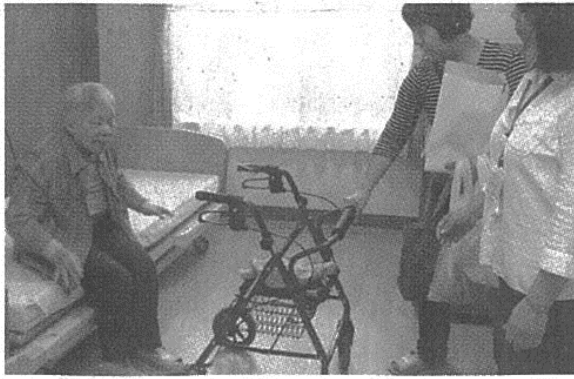


山口の特養施設 白松苑で内覧会

来月1日オープン

山口市阿知須の旧阿知須共立病院跡地に新築移転する特別養護老人ホーム白松苑(福永静香苑長)が完成し、10月1日にオープンする。21日に内覧会があり、地域住民や関係者ら約350人が見学した。



特別養護老人ホーム白松苑を見学する人ら 21日、山口市

同苑は社会福祉法人正清会が運営する。新施設は鉄筋コンクリート造り3階建てで、延べ床面積5912平方メートル。外観は阿知須のいづら造りをイメージしている。全室個室の車いす対応トイレ付きで、ショートステイを含めて計120室を用意。地域住民と入居者が一緒に楽しめる交流スペースなどを設けた。デイサービスセンターや居宅介護支援事業所も併設している。同市阿知須にある旧施設が築約40年と老朽化が進んでいたことで移転。福永苑長は「自分らしい生活を送ってもらえる充実した施設となった。地域の方々が気軽に立ち寄り、交流できる場所にもしていきたい」と話した。

内覧会は22日もある。問い合わせは、同苑(電話0836・65・2250)へ。

地域

ゆめ花博会場に展示

7、8月

り換えたりするなどこつこつと作業を続けてきた。地元の趣味仲間もレストアに協力し、今年2月にエンジンは息を吹き返し、5月には運転できるようになった。

山口市の鱒鱒八幡宮で19日、試走の報道公開があった。手動で約30分かけてエンジンを起動。時速十数キロのスピードながらも力強く参道を約200メートル走った。

防府市で自動車整備業を営み、修理に協力した山本繁さん(68)は「産業遺産の生き証人だ。技術の進歩を感じ、古いものの良さも見直してほしい」と話した。

【脇山隆俊】

動車を、山口市のクラシックカー愛好家らが4年間かけてレストア(修理・復元)し、よみがえらせた。10月7、8の両日、山口きらら博記念公園(山口市阿知須)で開催中の県の明治維新150年記念事業の中核イベント、山口ゆめ花博会場に展示する。

車は1903(明治36)年製の「モデルA」。1600ccのエンジンを積み、ボディやホイールは木製、馬車を思わせる車体や、灯油式のライトが時代を物語る。

所有者の男性愛好家(56)によると、4年前に名古屋市のクラシックカーファンから譲り受け、エンジンバルブや

マジックにお年寄り拍手

山口・阿知須の特養ホーム

新築内覧会で世界の技披露

7月にあったマジック世界最高峰の大会で3位に輝いた宇部市の阿知須の特別養護老人



リングを使ったマジックを披露する高重さん

ホーム「白松苑」を訪れ、鮮やかな手品で高起こった。立ち寄った同市阿知須引野の釈野瑞枝さん(78)は「初めて見たが素晴らしかった。どこかにタネがあるのかと思ったが最後まで分かんかった」と話していた。

新施設は定員100人。デイサービスは30人、ショートステイは20人利用でき、10月1日から運用を始める。【坂野日回子】